

# 第1・2学年 国語科学習指導案

児童数 1学年 女子 2名 計 2名

2学年 女子 1名 計 1名

場 所 1・2年教室

指導者 栗林 裕子

## 第1学年 国語科学習指導案

1 単元名 くらべてよう

2 教材名 「じどう車くらべ」「のりものずかんを作ろう」

3 単元について

(1) 単元観

第1学年及び第2学年の「読むこと」に関する指導目標は、「書かれている事柄の順序や場面の様子などに気づきながら読むことができるようにするとともに、楽しんで読書をしようとする態度を育てる」、「書くこと」に関する指導目標は、「経験したことや想像した事などについて、順序が分かるように、語や文の続き方に注意して文や文章を書くことができるようにするとともに、楽しんで表現しようとする態度を育てる」である。

「じどう車くらべ」では、バスや乗用車、トラック、クレーン車の仕事とつくりを説明し、最後に消防じどう車の仕事や作りについて考えさせるように提示されている。

本来、「じどう車くらべ」は「読むこと」をねらいとした教材であるが、さらに自分の興味のある車や乗り物について調べたり、書いたりする「のりものずかんを作ろう」という学習を組み入れ「読むこと」と「書くこと」をねらいとした複合単元として構成した。

(2) 児童について

児童は、入学以来、「だれだかわかるかな」で「問い 答え 説明」という説明文の基本的なパターンを学び、同じような構成で文章を書くという学習を行っている。

音読は、文章を一回読んだだけで二人ともすらすらひっかからずに読むことができ、内容の大体を把握することができる。また、知っていることを話すことも好きで、積極的に発言をする。

しかし、文章にサイドラインをひいたり、言葉の意味を考えたりという活動はまだ不慣れであり難しい。それから、「何を書けばよいのか」を考えるまでに時間がかかり、それをどのように書けばよいのかが身についていない。

そこで、基本である教材文を何度も音読したり、視写したりしながら身につくようにし、書く段階で生かしていけるようにしたい。

(3) 指導に当たって

本単元の指導にあたって、次のことを留意したい。

<つかむ>の段階では、ミニカーを提示し、自動車に興味を持たせ、教材文の意欲を高める。

<深める>の段階では、「しごと」は赤、「つくり」は青でサイドラインをひき、何が書かれているのか視覚で分かるようにしたり、「全文視写」「パネルシアター」を用いて、内容をつかめるように工夫したい。

<広げる>の段階では、「のりものずかんを作ろう」という活動を組み入れ、「読み」で生かした「しごと」と「つくり」の文章の書き方をまねて自動車や乗り物に関する文章を書き、自分なりの考えもいれながら図鑑作りを進めたい。

<ふりかえる>の段階では、乗り物図鑑を自らもう一度読み直したり、学習計画ワークシートをふりかえり、自分の学習のよかった点や友達の学習のよかった点をふり返らせたい。

4 単元目標

いろいろな自動車の仕事と作りの関係に興味をもって読み、好きなのりものを説明する文章を書く。

<読むこと>

三種類の自動車について、働きと作りの関係などを考えながら内容の大体を読む。(イ)

語や文としてのまとまりを考えながら声に出して読む。(エ)

<書くこと>

教材文を参考にして、簡単な組み立てを考えて書く。(ウ)

のりもの図鑑を作るために、選んだ自動車について説明に必要な情報を集める。(イ)

<言語についての知識・理解・技能>

語と語や文と文の続き方を考えて、敬体の文章を書く。

<関心・意欲・態度>

自動車の仕事とつくりに関心をもち、進んで内容の大体を読んだり、他の乗り物について進んで説明の文章を書こうとする。

第1学年

5 指導計画と評価規準(13時間)

過程	時間	学習活動	読むこと	書くこと・話すこと	言語についての知識・理解	国語への関心・意欲・態度
つかむ	1	教材文を読み、じどう車に興味・関心をもつ。				・じどう車について、知っていることを発表している。
	2	「のりものずかん」作りに興味をもち、学習計画を立てる。				・学習の見通しを持っている。
深める	3	バスとじょうよう車の仕事とつくりを読み取る。	・バス、じょうよう車の仕事と作りをとらえている。		・はっきりとした口形で読んでいる。	
	4	トラックの仕事とつくりを読みとる。	・トラックの仕事と作りをとらえている。			
	5 本時	クレーン車の仕事とつくりを読みとる。	・クレーン車の仕事と作りをとらえている。			
	6	はしご車の仕事とつくりについて書く。		はしご車の仕事とつくりについて簡単な文章を書いている。	・語と語や文と文の続き方を考えて敬体の文章を書いている。	
	7	今まで読んできた4つの車の仕事とつくりをまとめ、他の乗り物はどうなっているか興味をもたせる。	・今までよみとったことについて自分で考えたことや思ったことを発表している。			
広める	8	「のりものずかん」作りで、調べたい乗り物を選ぶ。				・紹介したいのりものを選んで進んで文章を書こうとしている。
	9	書きたい乗り物について本で調べ、メモをとる。		必要なことから本から選んだり、自分で考えてメモしている。		
	10 11 12	メモをもとに、乗り物について仕事や構造、その他気づいたことなどについて調べてまとめる。		選んだ乗り物の仕事やつくりについて文章に書いている。	・語と語や文と文の続き方を考えて敬体の文章を書いている。	
ふりかえる	13	友達に自分の選んだのりものについて発表し、単元の学習をふりかえる。				・自分の学習をふりかえったり、友達のよさを見つけ、学習に対する成就感をもっている。

6 本時の指導(5/11)

(1)目標

クレーン車の仕事とつくりを読みとることができる。

(2)具体的評価規準

具体的評価規準	Aの状況の具体的姿	Cの状況への手立て
・クレーン車の仕事やつくりについて、絵と文章を照らし合わせながらとらえている。	・クレーン車の仕事やつくりについて、絵と文章を照らし合わせてとらえるとともに、更に絵を見ながら想像を広げている。	・クレーン車の仕事やつくりについて、絵と文章を一つ一つ照合させながら、教師と一緒に読みとる。

## (3) 展開

評価( )及び指導上の留意点( )	学習活動	段階	形態
<p>5分間、めあてに沿って一人ずつ音読する。</p> <p>本時の学習内容を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>クレーン車の仕事とつくりを読みとり、クレーン車のページを作ろう。</p> </div>	<p>1 音読練習をする。</p> <p>2 課題と学習のめあてを把握し見通しをもつ。</p>	<p>つかむ</p> <p>8分</p>	
<p>絵から違いを見つけ、文章で確かめるように意識づける。</p> <p>仕事を書いてある文章には赤、つくりが書いてある文章には青のサイドラインを引くようにさせる。</p> <p>文章やさし絵から読み取ったことの他に、自分で気づいたことや思ったことも発表させる。</p> <p>3と4で学習したことをパネルシアターで話してみる。</p>	<p>3 クレーン車の仕事とつくりが書いてあるところを見つける。</p> <p>4 一文ずつ、言葉の意味を考えて読みすすめ、クレーン車の仕事やつくりについて発表する。</p> <p>5 パネルシアターで、読み取ったことを話す。</p>	<p>深める</p> <p>15分</p>	
<p>計画的に学習が進められるようにプリントには指示も入れる。</p> <p>文型を意識しながら書くことで、自分が書くときに参考にする目的と文章を順序よく丁寧に読むことをねらいとする。</p> <p>クレーン車の仕事とつくりを読みとることができたか。</p>	<p>6 学習プリントに、本文を視写する。</p> <p>7 自分の気づいたことや思ったことも書きいれながら、クレーン車のページを完成させる。</p>	<p>深める</p> <p>15分</p>	
<p>複式学級のよさを生かして、学習の成果を伝える。</p> <p>聞く視点にあった発表ができたか。</p> <p>今後の見通しと意欲を持つことができたか。(学習プリント・発言)</p>	<p>8 1年生の学習のまとめを発表する。</p> <p>9 自己評価をする。</p> <p>10 次時の確認をする。</p>	<p>まとめる</p> <p>7分</p>	

## 第2学年 国語科学習指導案

- 1 単元名 だいじなところに気をつけて読もう
- 2 教材名 「サンゴの海の生きものたち」「生きもの新聞を作ろう」

### 3 単元について

#### (1) 単元観

第1学年及び第2学年の「読むこと」に関する指導目標は、「書かれている事柄の順序や場面の様子などに気づきながら読むことができるようにするとともに、楽しんで読書をしようとする態度を育てる」、「書くこと」に関する指導目標は「経験したことや想像した事などについて、順序が分かるように、語や文の続き方に注意して文や文章を書くことができるようにするとともに、楽しんで表現しようとする態度を育てる」である。

本教材は、サンゴの海に住む魚たちの共生について述べられている説明的文章である。クマノミとイソギンチャク・ホンソメワカベラと大きな魚の関わり合いを読み解きながら、海の世界へ児童をひきつけ、文章を読む楽しさを味わうことができる。そして、新しい知識を得る楽しみを知り、読書活動へとつなげることができる教材である。

また、本来「サンゴの海の生きものたち」は、「読むこと」をねらいとする単元であるが、「生き物新聞を作ろう」という「書くこと」をねらいとした学習を取り入れ、複合単元として構成した。

#### (2) 児童について

児童は、「たんぼぼのちえ」で「たんぼぼ博士になってたんぼぼクイズを作ろう」という課題のもと、「問い」と「答え」を意識したり、「様子」と「理由」の叙述に気をつけて読みとりを行い、読み取ったことをクイズにしたり、パネルシアターで表わす活動を行った。

児童は、学習に真面目に取り組むが、音読や読み取りは一文一文教師と一緒に丁寧に読み取る時間が必要である。「サンゴの海の生き物たち」の学習を、とても楽しみにしているので、児童の力に合った活動を取り入れ楽しく学習できるように進めていきたい。

#### (3) 指導に当たって

本単元の指導にあたって、次のことを留意したい。

<つかむ>の段階では、サンゴの海の写真を見せたり、ビデオを見せたりして、興味を深めてから本文に入りたい。

<深める>の段階では、音読・全文視写・一文ずつの読み取り・パネルシアターという流れで、丁寧に読みとっていき、無理なく内容を理解できるようにしていきたい。

<広げる>の段階では、読みとったことを整理するとともに、他の生物について調べて紹介する活動を行い、「読むこと」と「書くこと・話すこと」を一体化させていきたい。

<ふり返る>の段階では、単元の学習を通して取りためていたパネルシアターを見なおし、活動をふりかえらせたい。

### 4 単元目標

生き物たちのくらしに興味をもち、大事なところに気をつけて読む。

生き物について調べたことを新聞にまとめる。

#### <読むこと>

生き物のかかわり方について、説明の順序に気をつけながら大体を読む。(イ)

#### <書くこと>

生き物のくらしについて、調べたことを語や文の続き方に注意して文章を書く。(ア)

#### <言語についての知識・理解・技能>

敬体で書かれた文章の文末表現に注意して読む。(ア)

#### <関心・意欲・態度>

生き物について書かれた本に興味をもち、読む。

5 指導計画と評価規準(13時間)

過程	時間	学習活動	読むこと	書くこと・話すこと	言語についての知識・理解	国語への関心・意欲・態度
つかむ	1	・サンゴの海の写真やビデオを見て、興味・関心をもつ。				・海の生き物に興味・関心をもって聞いている。
	2	・教材文を読み、心に残ったことや知りたいことを書く。		・心に残ったことや知りたいことを書いている。		
	3	・段落に分け、書かれている内容をつかみ、学習計画を立てる。	・段落に分け、段落ごとに出てくる生き物をとらえている。			
深める	4	・クマノミといそぎんちゃくの体の様子を読み取る。	・クマノミとイソギンチャクの体の様子を理解している。		・敬体の文章の文末表現に注意して読んでいる。	
	5 本時	・クマノミとイソギンチャクのかかわり合いを読み取る。	・クマノミとイソギンチャクのかかわり合いを理解している。			
	6	・ホンソメワケベラの体と大きな魚にすることを読み取る。	・ホンソメワケベラの体の様子と大きな魚の体をそうじすることを理解している。			
	7	・大きな魚とホンソメワケベラのかかわり合いを読みとる。	・大きな魚とホンソメワケベラのかかわり合いを理解している。			
	8	・クマノミとイソギンチャク、ホンソメワケベラと大きな魚のかかわり合いについて、文章を書く。	・読みとったことを確認しながら、それぞれの生き物のかかわり合いについて文章を書く。			
広げる	9	・生き物新聞作りのために、生き物の本のブックトークを聞く。				・生き物の本に興味・関心をもって読んでいる。
	10	・生き物の本の中から書きたい内容を選ぶ。		・生き物新聞を書くために材料を選んでいる。		
	11 12	・生き物新聞を書く。		・紹介したい生物の様子が読んでいる人に伝わるように書いている。		
ふりかえる	13	・1年生に生き物新聞の紹介をし、学習をふりかえる。		・友達に分かるよう生き物の紹介をすることができる。		

6 本時の指導(5/11)

(1)目標

イソギンチャクとクマノミのかかわり合いを読みとることができる。

(2)具体的評価規準

具体的評価規準	Aの状況の具体的姿	Cの状況への手立て
・イソギンチャクとクマノミのかかわり合いを理解している。	・イソギンチャクとクマノミのかかわり合いを理解し、発表している。	・絵や図を示しながら一緒に確認し、なぜ共生できるかを考えさせるようにする。

第2学年

(3)展開

形態	段階	学習活動	評価( )及び指導上の留意点( )
	つかむ 8分	1 音読練習をする。 2 課題と学習のめあてを把握し見通しをもつ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">             クマノミといそぎんちゃくのかかわり合いを読み取り、パネルシアターをやってみよう。           </div>	5分間、めあてに沿って一人ずつ、音読する。  本時の学習内容を確認する。
	深める 15分	3 全文視写をする。  4 クマノミにとっていいこと、イソギンチャクにとっていいことが書いてあるところに、サイドラインをひく。	全文視写をさせることで、一語一語の言葉について意識させる。また、文章の流れをつかませる。  さらに、読みとるための問いを用意し、自力で確認できるようにさせる。  クマノミを赤、イソギンチャクを青にし視覚的にとらえさせる。
	深める 15分	5 クマノミにとっていいこと、いそぎんちゃくにとっていいことは何かを発表する。 6 一文ずつ、文章を読みとり、言葉や内容について考え、クマノミとイソギンチャクの関係をまとめる。 7 読み取ったことをパネルシアターを使い話す。 8 自己評価をする。	4でひいたサイドラインをもとに、双方にとっての利益をとらえさせる。  「たがいに」「まもり合う」という言葉に着目する。 教科書を読むだけでなく、クマノミとイソギンチャクがどんな会話をしているかも考えさせながら、話すようにさせたい。 クマノミとイソギンチャクのかかわり合いが読み取ることができたか。
	まとめる 7分	9 1年生の学習のまとめを聞き、感想や意見を言う。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">             &lt;1年生の発表を聞く視点&gt;              クレーン車の仕事とつくりについてはっきりと話したり、自分の思ったことを言うことができたか。           </div> 10 次時の確認をする。	複式学級のよさを生かして、それぞれの学習の成果を伝え合う。 1年生の発表に対して聞く視点を与え、2年生が発表しやすいようにする。